

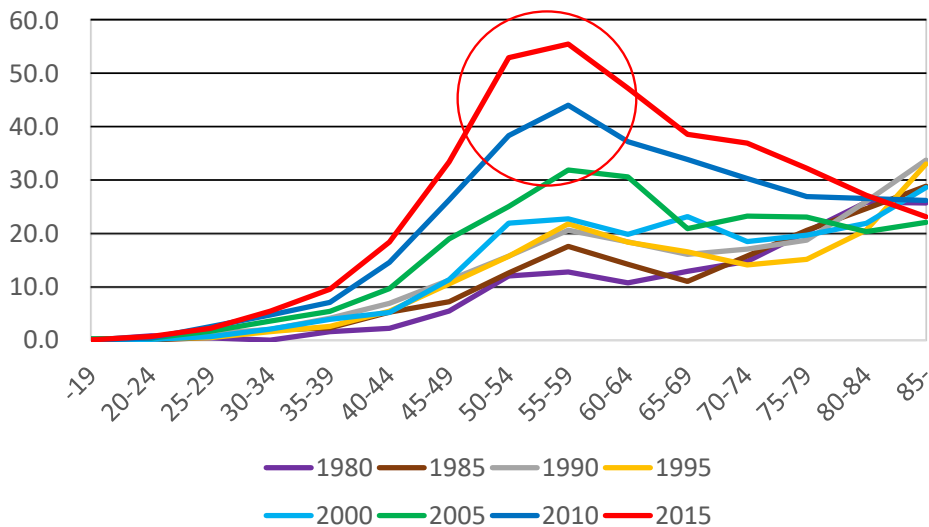
# 子宮体がん

## 子宮体がんとは？

子宮体がんは、妊娠中に赤ちゃんが育つ場所である子宮体部に発生するがんです。子宮体部内側の表面を「子宮内膜」という組織がおおっています。この子宮内膜に出来るため「子宮内膜がん」とも呼ばれます。近年は、子宮体がんの増加を認めています。年代別で多いのは、閉経前後の40～50歳代ですが、20歳代後半以降の女性にも増えています。背景には、結婚・妊娠年齢の上昇や妊娠回数の減少、月経不順、食の欧米化などがあるとみられています。



子宮体がんの罹患数(人口10万対)



国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター がん登録・統計データより作図

## かかりやすい方の特徴は？

かかりやすいのは以下のような特徴がある方です。

- 肥満
- 糖尿病
- 高血圧
- 脂質異常症
- 出産経験のない方
- 排卵障害(月経不順)



## 子宮体がんの症状は？

子宮体がんでもっとも多い自覚症状は**不正出血**です。

特に、**閉経後の不正出血**は子宮体がんを疑わなければなりません。

当院でも50歳以上の子宮体がんの方の75%以上に不正出血を認めています。

また、**褐色のおりもの**にも要注意です。




閉経後の不正出血は  
要注意！

## まとめ

ほかのがんも同様ですが、子宮体がんも初期に治療を開始した場合ほど治療成績がよいので、**早期に発見することが大切**です。

**閉経後に少量ずつ長く続く出血**がある場合は、早めに婦人科あるいは検診を受診し、子宮体がんの検査を受けることをお勧めします。



不正出血を認めたら  
受診を！